

結城哲彦さんを悼む

法学研究科博士後期課程 2年 園部正人

結城哲彦さんに初めてご挨拶をしたのは、昨年春先の懇親会のときでありました。矍鑠としたご様子、結城さんを、高林先生は冗談交じりに、しかし誇らしげに、この方は私の教え子なんだ、私の師匠だと思っただろう、と我々新生にご紹介されたものです。

結城さんは院の講義にも出席され、我々院生の報告に対してコメントをされることを常としておられました。私自身も論文の計画についてご指導を頂き、その後も教室でお目にかかるとう研究の進捗をお尋ね頂いたものです。いつも捗々しいお返事ができなかったことが、もうご意見を伺うことができない今となっては残念でなりません。

昨年度から私は、毎週の講義に向けた院生の報告用レジュメを、あらかじめ結城さんにお送りする役目をお引き受けしていました。

船橋の斎場から戻り、いつものように週明けの報告レジュメをダウンロードしたところで、もう結城さんにこれをお送りすることはないのかと思うと、身近な先輩を失ったことを身に沁みて感じました。

やがて夏季休暇が明ければ、我々は結城さんのいない新学期を迎えることとなります。

旅立たれるまさにそのときまでご研究に熱心であり、また、いつも我々後輩とともに歩んでくださった結城さんのことです。これからも我々の研究を見守って頂けることでしょうか。私自身、結城さんに今もご心配を頂いていることと思います。結城さんに認めて頂き、ご安心を頂けるような研究をしなければなりません。

結城さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。どうぞ安らかにおやすみください。